

**国分寺 高等学校 令和6年度 教科 公民 科目 公共**

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1、2、4、5組：三古 誠也）（3、6、7、8組：渡邊 光）

使用教科書：（新版 公共（数研出版））

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記時数
第1章 公共的な空間をつくる私たち 【知識及び技能】 青年期の特徴、哲学の源流思想、宗教、日本の思想及び西洋思想の需要などについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己形成の課題を考察し哲学・宗教・生活文化が人間に与えている影響に気づく。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよく生きることへの自覚を深める。	第1章 公共的な空間をつくる私たち 青年期と自己形成 人間としての自覚 日本人としての自覚	【知識・技能】 ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であること、古代ギリシャや古代中国の思想、世界の宗教、日本人の思想などを理解できている。 【思考・判断・表現】 自己形成の課題について考察でき、哲学・宗教・生活文化が人間に与えている影響に気づいている。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよく生きることについての自覚を深められている。	○	○	○	5
第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 【知識及び技能】 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容、地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりをつかむ。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究できる。	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 西洋近現代の思想	【知識・技能】 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容、地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思考・判断・表現】 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりをつかんでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の課題を主体的に追究できている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 【知識及び技能】 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容、地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりをつかむ。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究できる。	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 現代の諸課題と倫理	【知識・技能】 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容、地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思考・判断・表現】 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりをつかんでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の課題を主体的に追究できている。	○	○	○	3
第3章 公共的な空間における基本原理 【知識及び技能】 法などの社会規範の役割、民主政治のあゆみ、日本国憲法の三大原理や第9条の内容、日本国憲法で保障されている権利を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法で保障されている権利と公共の福祉の関係、日本の平和主義のあり方を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深める。	第3章 公共的な空間における基本原理 民主社会の基本原理 日本社会の基本原理	【知識・技能】 法などの社会規範の役割、民主政治のあゆみ、日本国憲法の三大原理や第9条の内容、日本国憲法で保障されている権利を理解している。 【思考・判断・表現】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法で保障されている権利と公共の福祉の関係、日本の平和主義のあり方を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1

2 学 期	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 【知識及び技能】日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】日本の政治のしくみを学習しながら、そこに潜む問題点を探しながら解決策を考える。 【学びに向かう力、人間性等】具体的な事例や判例を通して、さまざまな問題を自分事としてとらえる。	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 日本の政治機構 政治参加と民主政治の課題	【知識・技能】日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題を理解できている。 【思考・判断・表現】日本の政治のしくみに潜む問題点を探しながら解決策を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】具体的な事例や判例を通して、さまざまな問題を自分の立場で考えてみようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 【知識及び技能】現代の企業、市場経済、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあゆみ、産業構造の変化、中小企業や農業、契約の原則、雇用・労働問題や社会保障について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】経済の様々な問題について統計資料などを見ながら考察する。 【学びに向かう力、人間性等】経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられるようにする。	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 経済のしくみと市場機構 財政と金融 日本経済の発展と変化 豊かな生活と福祉の実現	【知識・技能】現代の企業、市場経済、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあゆみ、産業構造の変化、中小企業や農業、契約の原則、雇用・労働問題や社会保障について理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】経済の様々な問題について当家資料などを見ながら考察できている。 【学びに向かう力、人間性等】経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	
3 学 期	第6章 国際社会の動向と日本の役割 【知識及び技能】国際法の意義、国際連合の組織、冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れ、国際社会の中での日本の役割を理解する。 貿易や外国為替相場、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進んでいる世界の現状を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】国際政治・経済の様々な問題について地図・資料などを見ながら考察する。 【学びに向かう力、人間性等】国際社会の一員としてどんな貢献ができるか考える。	第6章 国際社会の動向と日本の役割 国際政治の動向 国際政治の課題と日本の役割 国際経済の動向と国際協力	【知識及び技能】国際法の意義、国際連合の組織、冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れ、国際社会の中での日本の役割を理解している。 貿易や外国為替相場、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進んでいる世界の現状を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】国際政治・経済の様々な問題について地図・資料などを見ながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】国際社会の一員としてどんな貢献ができるか考えられている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1

合計

70

教科 公民	の目標：
【知識及び技能】	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解していると、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
【思考力、判断力、表現力等】	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
【学びに向かう力、人間性等】	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指図にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を固く守り、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第6節 経済活動と福祉の向上 【知識及び技能】 ・日本経済における産業構造の変化について、理解している。 ・現在の日本経済の現状と課題について、理解している。 ・労働三法の内容について、理解している。 ・日本の社会保障制度について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の中小企業や農業経営者が直面している課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・現在の日本の労働問題や、労働環境をめぐり課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の社会保障制度の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	第6節 経済活動と福祉の向上 ①日本経済の変化と中小企業・農業問題 ②労使関係と労働問題 ③社会保障制度と福祉のあり方 ■諸課題へのアプローチ 「格差の理由とその対策」	【知識及び技能】 ・日本経済における産業構造の変化について、理解している。 ・現在の日本経済の現状と課題について、理解している。 ・労働三法の内容について、理解している。 ・日本の社会保障制度について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の中小企業や農業経営者が直面している課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・現在の日本の労働問題や、労働環境をめぐり課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の社会保障制度の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	5
定期考査			○	○		8
【知識及び技能】 諸課題の探究にあたって、日本社会の動向に着目したり、国内の諸地域や諸外国における取り組みなどを参考にしたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述している。 【学びに向かう力、人間性等】 取り上げた課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かうとしている。	【選択】 1 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 2 地域社会の自立と政府 3 多様な働き方・生き方を可能にする社会 4 産業構造の変化と起業 5 歳入・歳出両面での財政健全化 6 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 7 防災と安全・安心な社会の実現	【知識及び技能】 諸課題の探究にあたって、日本社会の動向に着目したり、国内の諸地域や諸外国における取り組みなどを参考にしたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述している。 【学びに向かう力、人間性等】 取り上げた課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かうとしている。	○	○	○	3
第1節 国際法の果たす役割 【知識・技能】 ・21世紀以降の国際社会の動向について、理解している。 ・国際法と国内法の違いや、国際法の種類や特徴について、理解している。 ・さまざまな国際裁判とそのしくみについて、理解している。 ・勢力均衡と集団安全保障の違いについて、理解している。 ・国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・領土問題などの国際紛争の解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・今日の国際情勢の変化を受けて、国際連合はどのような役割を強化すべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器廃絶のために、どのような努力がなされてきたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際法の果たす役割について、国際社会の特質や国際紛争の諸要因と関連付けて、将来、国際社会においてどのような制度やしくみを作っていくことが必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「国際法の果たす役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	第1節 国際法の果たす役割 ①国際社会の変遷 ②国際法の意義 ③国際機構の役割 ④国際紛争と軍縮への取り組み ■諸課題へのアプローチ 「国際法の役割と課題」	【知識・技能】 ・21世紀以降の国際社会の動向について、理解している。 ・国際法と国内法の違いや、国際法の種類や特徴について、理解している。 ・さまざまな国際裁判とそのしくみについて、理解している。 ・勢力均衡と集団安全保障の違いについて、理解している。 ・国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の多極化や国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・領土問題などの国際紛争の解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・今日の国際情勢の変化を受けて、国際連合はどのような役割を強化すべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器廃絶のために、どのような努力がなされてきたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際法の果たす役割について、国際社会の特質や国際紛争の諸要因と関連付けて、将来、国際社会においてどのような制度やしくみを作っていくことが必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「国際法の果たす役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1

2 学 期	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 【知識及び技能】 ・平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、理解している。 ・日米安全保障協力の変化と自衛隊の海外派遣について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ①日本の安全保障と国際貢献 ■諸課題へのアプローチ 「日本の国際貢献のあり方」	【知識及び技能】 ・平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、理解している。 ・日米安全保障協力の変化と自衛隊の海外派遣について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 【知識及び技能】 ・比較優位の考え方や国際分業の利点について、理解している。 ・国際収支統計の基本的な構成について、理解している。 ・変動相場制における為替相場の決定のしくみについて、理解している。 ・日本の対ドル為替相場の推移と、日本経済の動向について、理解している。 ・さまざまな国際経済機関の役割や課題について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、考察し、表現している。 ・国際収支の動向をもとに、日本の対外経済取引の現状について、考察し、表現している。 ・地域的経済統合やF T A・E P Aの意義と課題について、考察し、表現している。 ・国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について、多面的・多角的に考察、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 ①貿易の現状と意義 ②国民経済と国際収支 ③為替相場の変動 ④国際協調と国際経済機関の役割 ■諸課題へのアプローチ 「国際経済の現状と課題」	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 【知識及び技能】 ・比較優位の考え方や国際分業の利点について、理解している。 ・国際収支統計の基本的な構成について、理解している。 ・変動相場制における為替相場の決定のしくみについて、理解している。 ・日本の対ドル為替相場の推移と、日本経済の動向について、理解している。 ・さまざまな国際経済機関の役割や課題について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、考察し、表現している。 ・国際収支の動向をもとに、日本の対外経済取引の現状について、考察し、表現している。 ・地域的経済統合やF T A・E P Aの意義と課題について、考察し、表現している。 ・国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について、多面的・多角的に考察、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	
3 学 期	第4節 国際経済において求められる日本の役割 【知識及び技能】 ・国際経済における日本の地位について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について、考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	第4節 国際経済において求められる日本の役割 ①国際経済における日本の地位と国際協力 ■諸課題へのアプローチ 「国際経済の安定と成長に向けた日本の役割」	【知識及び技能】 ・国際経済における日本の地位について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について、考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	11

合計

56

国分寺 高等学校 令和6年度 教科 公民 科目 倫理

教科：公民 科目：倫理 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 選択

教科担当者：渡邊 光

使用教科書：(倫理(東京書籍))

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 倫理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を調べまとめる技能を身に付けるようになります。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養います。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めます。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 人間の心の在り方 ねらい ○人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて理解し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。	・人間とは何か ・人間の心の働き	【知識及び技能】 ・人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて理解し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について、適切な知識を習得している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。  【思考力、判断力、表現力等】 ・人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて多面的・多角的に考察し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について、思索を深めている。 ・理解したこと、考察したことを適切な方法で表現している。  【学びに向かう力、人間性等】 ・人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて自分自身に関連づけて捉え、他者と共によりよく生きるあり方を主体的に探究している。	○	○	○	10
定期考査		・用語や概念、思想の理解などに関する出題から、知識・技能の定着の実態を把握する。 (例)主として知識・理解の観点から50%の配分で出題、資料から読み取れる事柄に関して20%の配分で出題 ・論述問題などにより、思考・判断・表現能力を見る。 (例)主として思考・判断の観点から30%の配分で出題	○	○		1
1 学期 B さまざまな人生観・倫理観・世界観 I ねらい ○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想、人生における宗教や芸術の意義について理解し、さまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	・哲学すること ・ギリシャの思想 ・宗教と社会 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 ・中国の思想 ・芸術	【知識及び技能】 ・幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想、人生における宗教や芸術の意義について理解している。 ・教科書記載の資料やコラム及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。  【思考力、判断力、表現力等】 ・幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想、宗教や芸術に見られるさまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索を深めている。 ・理解したこと、考察したことを適切な方法で表現している。  【学びに向かう力、人間性等】 ・幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想、宗教や芸術に見られるさまざまな人生観・倫理観・世界観を手がかりに、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について主体的に探究している。	○	○	○	12
定期考査		・用語や概念、思想の理解などに関する出題から、知識・技能の定着の実態を把握する。 (例)主として知識・理解の観点から50%の配分で出題、資料から読み取れる事柄に関して20%の配分で出題 ・論述問題などにより、思考・判断・表現能力を見る。 (例)主として思考・判断の観点から30%の配分で出題	○	○		1

2 学期	C さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ ねらい ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代と人間尊重の精神</li> <li>近代思想の展開</li> <li>人格の尊厳と人倫の思想</li> <li>社会変革の思想</li> <li>理性への疑念</li> <li>人間観・言語観の問い直し</li> <li>他者・自然とのかかわり</li> </ul>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について理解している。</li> <li>教科書記載の資料やコラム及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索を深めている。</li> <li>理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想を手がかりに、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について主体的に探究している。</li> </ul>	○	○	○	10
	定期考査		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語や概念、思想の理解などに関する出題から、知識・技能の定着の実態を把握する。</li> <li>(例)主として知識・理解の観点から50%の配分が出題。資料から読み取れる事柄に関して20%の配分が出題。</li> <li>論述問題などにより、思考・判断・表現能力を見る。</li> <li>(例)主として思考・判断の観点から30%の配分が出題。</li> </ul>	○	○		1
	D 国際社会に生きる日本人としての自覚 ねらい ○古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想について理解し、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人の精神風土</li> <li>仏教と日本人の思想形成</li> <li>儒教と日本人の思想形成</li> <li>国学の思想</li> <li>庶民の思想</li> <li>西洋思想と日本人の近代化</li> <li>国際社会に生きる日本人の自覚</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、日本の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手がかりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいて理解している。</li> <li>教科書記載の資料やコラム及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を手がかりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索を深めている。</li> <li>理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を手がかりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。</li> </ul>	○	○	○	10
定期考査		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語や概念、思想の理解などに関する出題から、知識・技能の定着の実態を把握する。</li> <li>(例)主として知識・理解の観点から50%の配分が出題。資料から読み取れる事柄に関して20%の配分が出題。</li> <li>論述問題などにより、思考・判断・表現能力を見る。</li> <li>(例)主として思考・判断の観点から30%の配分が出題。</li> </ul>	○	○		1	
3 学期	E 現代の諸課題と倫理 ○第1編で学習した事項を基盤に、生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、「生きることの意義」について思索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命</li> <li>自然</li> <li>科学技術</li> <li>福祉</li> <li>文化と宗教</li> <li>戦争と平和</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書記載の資料やコラム及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな人生観・倫理観・世界観を手がかりに、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について主体的に探究している。</li> </ul>	○	○	○	4
	定期考査		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語や概念、思想の理解などに関する出題から、知識・技能の定着の実態を把握する。</li> <li>(例)主として知識・理解の観点から50%の配分が出題。資料から読み取れる事柄に関して20%の配分が出題。</li> <li>論述問題などにより、思考・判断・表現能力を見る。</li> <li>(例)主として思考・判断の観点から30%の配分が出題。</li> </ul>	○	○		1